

久留米大学を受診した患者さんへ

「THA（人工股関節全置換術）術前後の術側股関節外転筋力の改善率に影響する因子」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
- 2) 受診科：整形外科
- 3) 対象疾患名：変形性股関節症
- 4) 使用する試料：術前・術後検査 評価用紙

あなたの情報を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：リハビリテーション部

研究代表者：理学療法士 谷口侑紀

研究分担者：久留米大学 整形外科学講座 教授 志波 直人
 医師 久米 慎一郎
 医師 石橋 千直

久留米大学医療センター リハビリテーション部

理学療法士 山添 貴弘
 塚田 裕也
 中島 義博
 佐藤 孝二
 今石 喜石

2) 研究の意義と目的

本邦における変形性股関節症患者は変形性関節症の中でも変形性脊椎症、変形性膝関節症について患者数が多いと報告されています。関節原生の疼痛により歩行能力や日常生活動作能力を著しく低下させ、Quality of life (QOL) に大きく影響を及ぼすとされています。治療法の1つとして選択される人工股関節全置換術（Total Hip Arthroplasty、以下 THA）によって、変形性股関節症患者は疼痛改善や身体機能向上、歩行能力向上を図ることができます。身体機能の中でも股関節外転筋力は術後の下肢筋力を反映する一つの指標であり、歩行能力や日常生活動作能力に関与することが報告されています。しかし、術前後での股関節外転筋力の改善率と関連する身体機能との関係を報告したものはみられません。

そこで本研究では、THA 術前後の変形性股関節症患者の股関節外転筋力の改善率を評価し、改善率と関連する身体機能を検討することを目的として行います。

3) 研究の方法：

人工股関節全置換術前、術後の患者に対して身体機能や日常生活動作等の手術前評価を行い、評価結果の判定・検証を行います。身体機能面、特に股関節外転筋力の変化の傾向の把握や治療内容についての検討を行います。

4) 研究期間：平成 28 年 10 月倫理委員会承認後～平成 33 年 9 月迄

5) 上記の情報の使用を選定した理由：人工股関節全置換術適応患者の術前評価の結果を判定・検証することで、対象症例に対する適切な理学療法を提供が可能となり、治療効果の向上へ繋がります。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

今回の研究で得られた情報は厳密に管理され、プライバシーに関する個人情報は保護されます。取得した個人情報を、個人が特定されるような形で公表することはありません。

7) 研究成果の発表の方法：第 44 回日本股関節学会学術集会での発表、論文化

8) 利益相反：特記なし

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学医療センター リハビリテーション部 理学療法士 谷口侑紀
〒839-0863 福岡県久留米市国分町 155 番 1 号
TEL 0942-22-6721 FAX 0942-22-6538（直通）

研究番号

研究番号 16135